

トップインタビュー

多能工化進め技術力向上

2011年4月1日にコマツ工機と合併するとともに、本社を東京から富山県南砺市へ移転、同時に社長に就任し、新生コマツNTCをけん引して3年目に入る。コマツグループ産業機械分野主軸の総合工作機械メーカーとして北陸地域で基盤を固め、事業展開を進める桃井克志社長に現状と今後の展開を聞いた。
(富山支局長:渡辺大介)

コマツNTC社長 桃井 克志氏



ため新規の用途開発に力を入れる。LED（発光ダイオード）に使用されるサファイア系の切断などシリコンインゴットより硬い材料にも挑戦している。硬くてもろい材料をきれいにカットできれば用途は拡大する」

4月1日付で大幅な組織改編を行いました。

「製品別事業部制から販売・サービス・設計をさらに強化するため、機能ごとに区分する組織に移行した。完全子会社のトヤマ機工を吸収合併し機械加工から組み立てまでの一貫体制を構築した。効率化により生産コストの低減や担当商品拡大で営業を強化し収益向上を狙う。レーザー事業は、量産維持を含む生産以外の開発・販売・サービ

高品質とサービス武器に

(石川県)に移管する」とでシナジー(相乗効果)を見込む。新たに品質保証本部やサービス本部、人材開発部を設けた。高い品質が生きる道であり、アフターサービスもしっかりと行いたい。また、技能伝承できる体制をつくり、多能工化を進め社員のレベルアップを図る」

中京大学は4月に情報理工学部を改組して工学部を開設した。機械システム工学科、電気電子工学科、情報工学科、メディア工学科の計4学部を備え、モノづくりとITを融合

した教育や研究を目指す。少子化の中でどのような特徴を出して学生を集め、教育や研究の強化につなげるのか、北川薰学長に聞いた。

中京大学学長 北川 薫氏

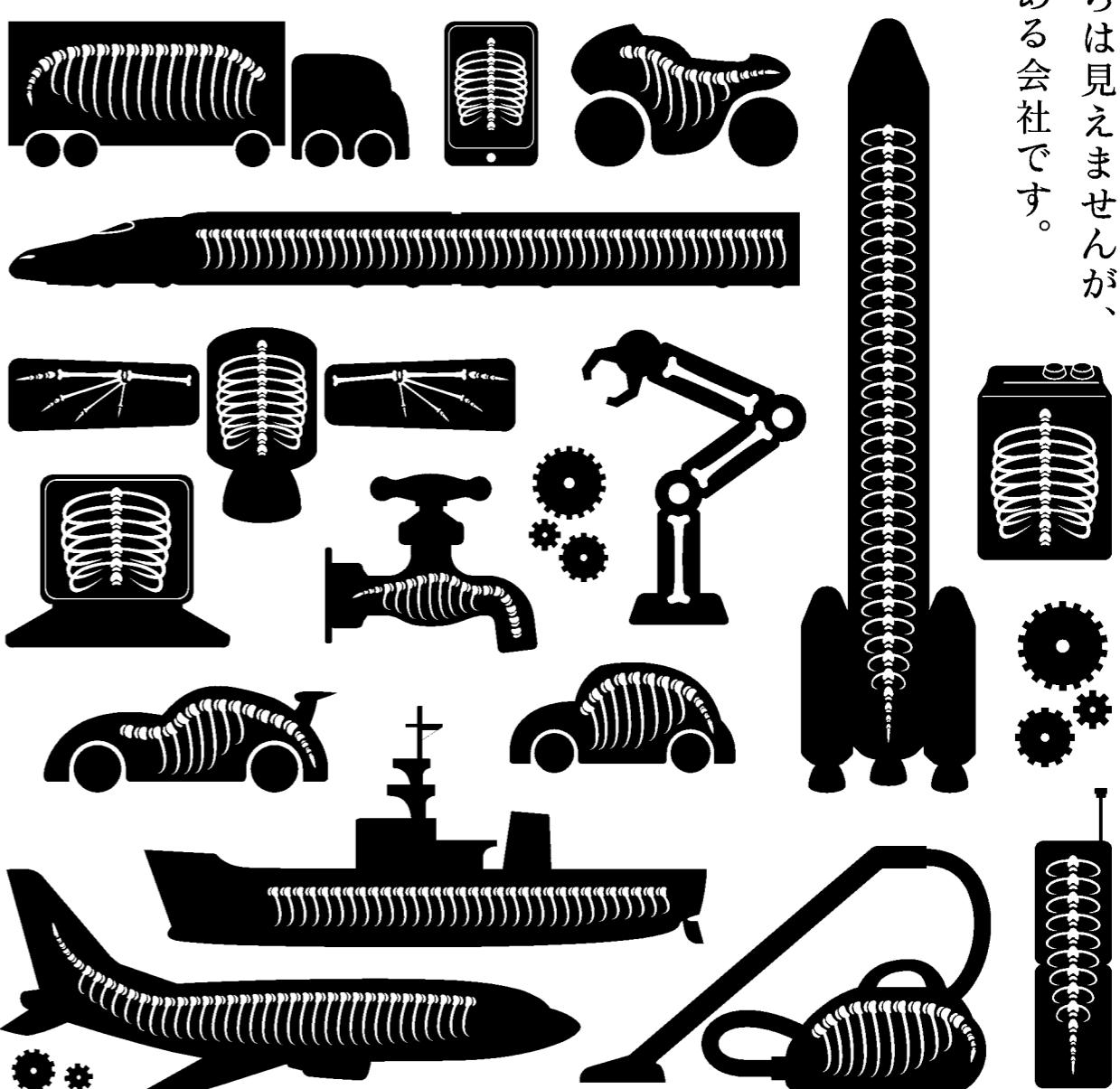


電機、NTTドコモなど民間出身の教員を多く持つたので実践的な教育重視し、名古屋大学や占屋工業大学に続くレベルを目指す。すでに多くの大学が子系の学部を持つ中、技術をどう出しますか。「モノづくりの現場で、子が親方を見ながら技術を習得するように、教員と学生が対面して指導する機会を増やす。学生は口頭的に集まるオープスペースをゼミ室や研究室と直結させ、教員とのコミュニケーションをよりやすくする。中京大の学生は世界的に活躍するスポーツ選手が多いが、元気さが際立つようだ。工学部出身の学生も積極的なコミュニケーションで各企業の現場を活気づけられる人

情報とモノづくりを連携

材を輩出できるだらう」
「自動車産業などは裾野が広いため、人同士のネットワークを重視して、助け合いながら事業展開してきた。共同で器用に丁寧にモノづくりを行う文化があり、高品質な部品、製品を作る能力が高い。この文化に溶け込みやすい学生を育てて地元企業に就職してもらい、地域への貢献度を高めたい」

「製造業の今後の課題を。



多彩なフィールドで、フロンティアを目指しています。

大同特殊鋼の素材は、自動車や航空機等の輸送機械をはじめ、家電製品や情報機器、産業機械など、暮らしや産業を支える多彩な製品や部品に使われています。私たちの使命は、素材の力で新たな価値創造に貢献すること。これからも独創の技術で、さらなるフロンティアを目指します。